

人づくりとものづくりの質を高め、
中期経営計画Phase2の成長戦略を加速。
不確実な時代にも揺るがない
独創の技術と人財への集中投資で、
社会とメックグループの持続的発展を
実現していきます。

代表取締役社長

前田和夫

事業環境

2025年度を振り返って

2025年度は米国の関税政策や地政学リスクの高まり、グローバル経済の構造変化など先行き不透明な状況が続きました。こうした世界情勢の影響を受けながら、我が国においては雇用・所得環境の改善が続いた一方、物価上昇が消費マインドを抑制する動きも見られました。

このような環境下においても、エレクトロニクス業界では、技術革新の波が一段と加速し生成AI関連が引き続き市場の成長をけん引しました。パソコン、スマートフォンに加え、自動運転化が進む車載関連

も概ね堅調に推移し、電子基板・部品業界もその活況を受けて着実に成長しました。当社はAIを支える半導体パッケージ基板の化学薬品プロセスで世界的なシェアを有しています。こうした市場の追い風を受けて、半導体パッケージ基板および新技術領域である情報通信の高速化に関わる製品・技術の市場展開を加速した結果、特に当社の強みである半導体パッケージ基板の先端領域で需要が大幅に伸長し、売上高は過去最高となりました。

この成果は、単なる市場の追い風だけによるものではなく、生成AIの社会への更なる浸透をかねてより大いなる機会と捉え、リスクに備えながら変化に柔軟に対応する姿勢を貫いてきた結果と言えます。「独創のAI企業としての顔を持つ」当社にふさわしい

価値の創出に注力し、その礎となる研究開発を20年以上にわたって積み重ねてきた結果が、今まさに市場で花開いた、そのような手ごたえを強く感じています。

中期経営計画

ものづくりの質を上げて安定収益の土台を築くPhase2

2025年度は、「2030年ビジョンPhase2 中期経営計画(2025-2027年)」の初年度にあたります。コア事業の強化と位置付けたPhase1から更なる成長への礎を築くPhase2へ。このフェーズは新技術領域での地位確立や既存技術を応用展開した分野

における事業構築など、企業価値の最大化に向けた足がかりと位置付けています。急激な環境の変化にも揺るがぬ体力を備えながら、足元の経営環境を冷静に見据え、迅速かつ柔軟な判断で収益性を維持・強化することが求められるフェーズです。

そのPhase2初年度を振り返ると、まず、半導体や電子基板といった当社コア事業の関連市場の拡大にともなう、事業機会の創出がありました。

■ Phase2(2025-2027年) 定量目標と実績

連結営業利益率	2027年数値目標	2025年数値実績
	26~30%	27.4%
ROE	2027年数値目標	2025年数値実績
	13~16%	17.5%

多様化するAI需要や5G通信、IoTといった次世代デジタル市場において高速情報処理・低電力消費、小型化へのニーズが急速に高まりました。当社が独自に開発した超微粗化・無粗化技術による密着向上剤は、電気信号の高速化と高密度化を同時に実現する製品であり、まさにこの需要に応えるものです。最先端の市場ニーズと当社の技術力が高い精度でマッチしたと言えます。

当社の密着向上剤等の技術が市場に広く認知・浸透した結果、定量目標である「営業利益率20%以上」「ROE10%以上」を上回る実績で営業利益率27.4%、ROE17.5%となり、売上高および営業利益は過去最高を更新しました。この成果を踏まえつつ、

当社は中期経営計画Phase2の最終年度である、2027年12月期目標を次のように見直しました。

売上高目標は250億円で据え置く一方、その内訳を見直しました。コア事業については230億円から245億円へと引き上げ、既存技術の応用展開事業は事業環境の変化を踏まえ15億円から5億円に修正しています。営業利益率目標は、売上の拡大や高付加価値製品への需要の高まりを受け、当初目標の20%以上から26～30%に、ROEは10%以上から13～16%に上方修正しています。

Phase2の2年目からの事業戦略に大きな変更はありませんが、多様化する市場の変化を見ると「もののづくりの質」が上がってきたという感覚があります。

この変化に対応するため、当社としては次の3つの点に注力していくことを考えています。

一つは既存のコア技術である先端半導体パッケージ基板への製品展開です。化学密着（APシリーズ）、機械（粗化）密着（CZシリーズ）に対応した豊富な製品を展開しながら、個々のお客様に寄り添った技術サポートを通じて最適なお提案ができるよう、取り組んでまいります。

次に、既存のコア技術を応用展開した分野における新事業領域として、高周波基板の取り組みがあります。高周波になると電気は金属の表面を走る特性があります。データ処理の高速化を目指すうえで、銅の表面にわずかでも凹凸があると電気信号の伝送損失が発生します。このため銅を粗化せず、銅と樹脂を密着させることで伝送ロスがより少ない次世代APシリーズの技術確立を加速していきます。

もう一つの応用展開としては、インターポーザー*の構造変化に対応した製品開発を進めています。現在はシリコンインターポーザーが主流ですが、お客様との共創のなかで有機インターポーザーの開発を進め、次世代半導体パッケージ市場を確立できると見込んでいます。まだプロジェクトは端緒にすぎませんが、次世代技術という未来への取り組みに夢を持ちながら、コア事業で安定収益を確保することで事業の礎を強化し、2030年に向けて持続的成長を図ってまいります。

* 半導体チップや電子部品を接続するための中間基板。高密度配線や異種チップ間の高信頼接続を実現する重要な役割を担う

サステナブル経営

人づくりと気候変動対応

事業の成長とともに「人」への投資もまた急務となっています。市場全体で、製品・サービスの「ものづくりの質」が向上するなか、当社としても生産体制やプロセスの多様化、営業力の質の維持・向上が求められており、事務部門を含む全部門で人員の不足感が生じているのが実情です。

しかしながら、人員の拡充のみに解決策を求めることは、本質的ではありません。当社の人的資本戦略の根本は、まず「人づくり」にあります。質の高い人財を育て、確保することが喫緊の課題と捉え、研修制度の充実やキャリア形成支援、マネジメントシステムの強化という「教育」「研修」「マネジメント」の三つの柱から体系的な人財育成を推進しています。それと同時に、働く環境そのものの質を高めることにも注力しています。無理・無駄のない働き方と充実した生活が両立できるよう、ワークライフバランスの実現を重視しています。さらにDX推進の一環としてAIを積極的に取り入れ、事務作業の効率化や生産工程の自動化、開発現場での応用を進めることで、人財の質と仕事の質の両輪を高めようとしています。こうした取り組みを通して、組織全体の底上げを図ってまいります。

また、事業活動を通じた社会への貢献として、環境への取り組みを着実かつ継続的に深化させています。地球温暖化問題が深刻さを増すなか、



脱炭素化に向けた動きは今や世界共通の重要課題となっています。当社グループもこの課題を真摯に受け止め、環境負荷を低減する製品の開発や生産工場での省電力化など、事業拠点における温室効果ガスの削減に継続的に取り組んでまいりました。近年では、お客様からますます高まる要請にも真摯に応えながら、環境への配慮を一層深めています。

当社グループとしては、まずは日本国内のScope 1～3の全カテゴリの排出量を把握し、国内外のグローバル拠点を含むグループ全体の削減目標を設定・開示するところから着手しました。また、使用電力の再生可能エネルギーへの転換やカーボンオフセットクレジットの活用など、脱炭素に向けた取り組みを着実に推進しています。特効薬の無い課題だからこそ、一人ひとりが意識を持ち、小さな積み重ねを続けることで温室効果ガス排出量の削減につなげ、サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

成長投資

投資とステークホルダー エンゲージメント

今後の目標として、まずコア事業の拡大と新技術領域の開拓の両輪で成長していくためにも、技術の多様化に即応できる研究開発の体制強化、そしてますます増加する製品需要に対応する生産体制の確立に投資を集中投下していきます。質の高いもの

づくりと人づくりに対応する拠点として、北九州に新工場を建設しております。2026年12月の稼働開始を予定しており、最大生産能力は年間3万トンを見込んでいます。さらに既存工場の増強も計画しており、増え続けるお客様の需要にしっかりとお応えするとともに、お取引先様も含めたサプライ

チェーンの安定化にも貢献してまいります。

また、2025年12月期より配当方針を変更し、連結配当性向35%以上かつ連結株主資本配当率(DOE)4.0%以上とさせていただきます。当社は、株主の皆さまをはじめとする全てのステークホルダーへの責務を果たすことを重要視し、皆さまとの

対話を通じて、持続的な成長へ向けた資本戦略を推進してまいります。

引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

理念体系図

創業以来エレクトロニクス業界の発展を支えてきた電子基板・電子部品向け化学薬品だけにとどまらず、世界に向けてさまざまな価値を提供したいと考えております。2025年、「2030年ビジョン Phase2」を機に、当社の理念体系を整理・見直し、あらたに制定いたしました。

社是

Company motto

仕事を楽しむ

経営理念

Mission

展望 / 目標

Vision / Goal

価値観

Value

経営理念

わたしたちは「独創の技術」「信頼の品質」「万全のサービス」を信条に、自由に着想し、グローバルな事業活動を通して界面価値創造を実現することで豊かで潤いのある社会と環境づくりに貢献します

Mission

界面から、世界を変える

Vision

界面の創出と接合で世界一になる

Goal

ありたい姿の実現

- 真のグローバルカンパニーになる
- 研究開発型企業であり続ける
- 独創のAI企業としての顔を持つ

社訓

- 一. 失敗を恐れず常に新しい目標に挑戦しよう
- 一. 飽くなき好奇心で工夫改善を重ねよう
- 一. 協調と感謝の気持ちで力を合わせ仕事を進めよう
- 一. 安全と健康に気を配り楽しい職場を作ろう
- 一. 広く社会に役立つことを心掛けよう

創造と変革

「つくる」を変える、「うる」を変える

人の“わ”を重んじ、唯一無二の価値を育む

社外への人の輪と、社内への人の和。
価値を育むのは人である